

川上ダム通信

2011

4 月号



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

平成23年度実施予定の工事について

平成23年度に川上ダムで実施する工事についてお知らせします。

本年度は昨年度に引き続き県道青美線美杉線の付替工事を実施いたします。青山美杉線の付替工事は、平成22年度までに総延長約4kmのうち約2.5kmが完成しており、残る1.5kmを実施中です。上流側の北野地区からは「付替県道青美線トンネル工事」によりトンネル工事を引き続き実施します。川上ダムの貯水池を横断する唯一の橋梁となる「付替県道青美線貯水池横断橋工事」では全長226mの橋梁の建設にとりかかっています。また、現在上川原地区で行き止まりとなっている下流側についても「付替県道青美線第2工区工事」に着手する予定です。

引き続き、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

【工事課 森岡浩然】



●平成23年度実施予定の付替道路工事

工事名称	請負業者	工期
川上ダム付替県道青美線トンネル工事	清水建設(株)	平成22年 3月~平成24年 5月
川上ダム付替県道青美線貯水池横断橋工事	鉄建建設(株)	平成22年 12月~平成25年 8月
付替県道青美線第2工区工事(仮称)	(発注予定)	(発注予定)

青美線トンネル工事の状況

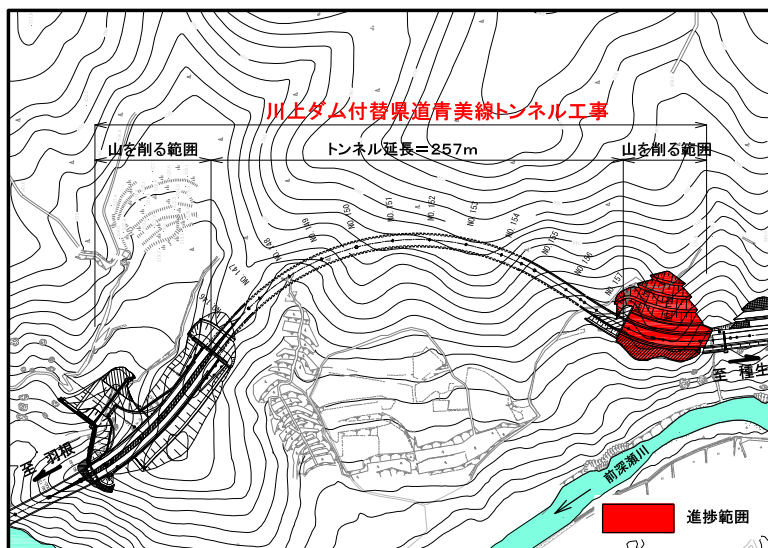
青美線トンネル工事は上流側から工事をすすめてきましたが、いよいよトンネルの掘削工事を開始しました。

トンネルの掘削は、火薬を使った発破と大型機械による掘削を併せて実施します。発破により騒音と振動が発生しますが、**騒音や振動が発生しにくい「制御発破工法」**を採用するほか、**トンネルの入り口に防音扉を設置して騒音の低減を図ります。**

また、工事区域周辺では騒音測定器や振動計を設置して対策の効果を監視します。

今後、トンネル掘削工事が本格化してまいります。工事箇所周辺にお住まいの皆様方へご迷惑が及ばないように注意して工事を進めてまいりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

【工事課 森岡浩然】



付替県道青美線トンネル工事の進捗状況

伊賀労働基準監督署と合同で安全パトロール

工事現場では安全第一。労働災害は決して発生させてはなりません。このため川上ダム建設所では毎月1回、建設所職員と請負業者が合同で工事現場の安全パトロールを行っています。そして今年1月27日（木）の安全パトロールでは、特別に**伊賀労働基準監督署から監督署長及び安全専門官をお招きし、監督署と合同でパトロールを実施しました。**

監督署のお二人には、労働安全衛生の専門家ならではの厳しい目で、青美トンネル工事現場のすみずみまでチェックしていただきました。パトロール後の講評では改善点をご指導いただき、より一層の安全向上につながるとも貴重で有意義な機会となりました。

今後も川上ダム建設所では、工事現場の安全に常に目を配り、安全第一、無事故・無災害で事業を進めてまいります。

【工務課 鶴牧美鈴】



工事現場の安全パトロール



パトロールの結果の講評

水道再評価委員会

3月3日（木）に、川上ダムの都市用水事業（水道事業）に関する事業評価委員会を開催しました。委員会は、事業評価にあたって学識経験者等の第三者から意見を聴くことを目的としており、当日は伊賀市のゆめが丘浄水場や川上ダムの建設現場を視察した後、伊賀市の水事情にもたらず川上ダムの効果について意見をいただきました。

伊賀市では水道未普及地域への給水、水質や水量が悪化している簡易水道から安心・安全な上水道への転換といった課題があります。委員会では、こうした水事情に対する川上ダムの事業効果について活発なご意見をいただきました。今後、今回いただいたご意見を踏まえて評価の結果を厚生労働省に報告いたします。

今回の事業評価にあたり、ご協力をいただいた関係者の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。今後とも、川上ダム事業に対するご理解・ご協力をよろしく願います。【総務課 堀雅智】



川上ダム事業効果を検証



ゆめが丘浄水場を視察

環境保全協議会

川上ダムでは、機構職員や工事関係者の環境保全意識の向上を図るとともに、工事関係者と一体となって環境保全対策を実施するため、機構職員と工事関係者で構成する環境保全協議会を設置しています。

協議会では、毎月1回機構職員で実施している環境パトロールに基づく指摘や情報提供を行うことで、環境保全に関する対応の周知・徹底を図っています。また、工事関係者が作成した環境保全に関する計画や計画に基づく環境保全対策の実施状況点検表を基に、協議会内で環境保全について確認・協議を行い、より良い環境保全対策が実施できるように努めています。

昨年度は、協議会の指摘により、工事現場の詰め所において当該工事における環境保全に関する取り組み内容の掲示・作業員への周知が行われた事例がありました。また、環境保全対策として粉塵の巻き上げが発生しそうな工事において、散水等の環境保全対策が定期的に実施されました。

今年度も、環境保全に配慮した工事の実施に向けて取り組んでまいります。【環境課 鷲尾盛士】



環境保全協議会の実施状況



散水車による散水状況

第9回 伊賀市周辺の水辺の土木

近代砂防は伊賀から始まった

その昔、木津川の流域の山々では、京都・奈良の神社・仏閣建立のための乱伐、あるいは製陶のための粘土の採掘や焼成に必要な高温が得られる松材の伐採により山林が荒廃し、大量の土砂が木津川や淀川に流れ込む原因となっていました。この土砂が木津川や淀川の川底をせり上げて洪水を頻発させ、また河口を埋め商船運航の障害にもなっていました。このことは天明8年、大阪住人吉田屋藤七が「淀川は水一升のうち土砂が五合も混じって流れ出す」、「土砂が溜まって年々川床が高くなり、淀川の通船や河口の入船に支障を来している」と大阪町奉行所に訴えた書状からもうかがい知ることができます。

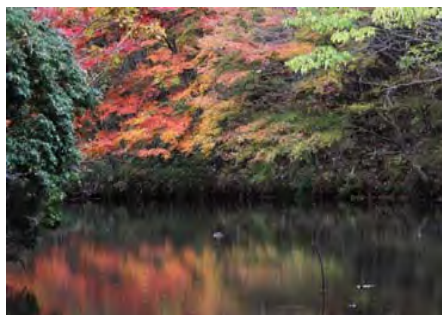
これに対して江戸幕府は「山川掟の令」を定めて無用の乱伐を禁止、苗木の植栽を奨励するなどの対策を行いましたが、十分な成果は得られませんでした。

明治維新最中の明治元年、3年とたて続けに大水害が発生、一方で近代化に向け淀川の舟運の重要性がさらに高まったことを受け、淀川の治山治水事業の重要性を認識した明治政府は欧州の技術を導入して砂防事業に取りかかり、**明治11年に棚倉（京都）と島ヶ原（三重）の2箇所に砂防工営所を設置しました。近代技術による砂防工事が全国に先がけてこの伊賀地方から始まったのです。**大正中期までは山腹への植栽が主体だった砂防工事も、昭和に入りコンクリート技術が導入されると砂防堰堤の整備が本格化しました。この砂防堰堤の登場で流出土砂量を低減することができるようになり、土砂災害の脅威が次第に取り除かれていきました。

現在、木津川の上流には100基を超える砂防堰堤が整備されていますが、それぞれ溪流の風景に溶け込みながら人々の暮らしを守り続けています。 【調査設計課 金山明広】



木津川最上流部の青山川に設置された青山堰堤
(昭和45年新設、平成7年嵩上)



昭和33年に完成し自然に溶け込んだ
床並堰堤の貯水池

大鍋イベント

4月3日(日)に玄関前広場で桜ぜんざいを来館者にふるまいます。なくなり次第終了となります。
開催場所：大山田温泉 開催時間 10:00~15:00
料金：無料
TEL：伊賀の国大山田温泉さるびの温泉
0120-46-0268

伊賀上野NINJAフェスタ 2011

忍者のふるさと・伊賀上野の名物イベント「伊賀上野NINJAフェスタ」4月1日から5月5日まで忍者をテーマにしたイベントが盛りだくさん!
開催場所：伊賀市街地、市街地全般
料金：忍者変身処 700円、まちかど忍者道場 700円
TEL：伊賀上野観光協会 0595-26-7788

編集後記

平成23年度もよろしくお願いたします。

【広報誌発行事務局】

編集長 及川 拓治 (建設所長)
デスク 吉岡 直也 (総務課長)
" 柳生 光彦 (工務課長)
記者 加藤 晶久 (第一用地課)
堀 雅智 (総務課)
松高 遵 (第二用地課)
森岡 浩然 (工事課)



ISO14001: 2004
JQA-EM5769

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。
ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆
◇ 川上ダム建設所はISO14001を認証取得し、環境保全を推進しています。◇